

【書く・なぞる】俳句 与謝蕪村 三

馬に草 春かせて見る 枯尾花

木枯や 竹斎の肘 折れんばかり

夏河を 越すうれしさよ 手に草履

雪の朝 二の字二の字の 下駄の跡

古郷や 白の音して 夜半の冬